

鎌倉市SDGsつながりポイント かわら版



鎌倉市SDGsつながりポイントは鎌倉市で導入されている、人と人をつなげるコミュニティ通貨です（「まちのコイン」というアプリを利用します。コインの単位は「クルッポ」）。このかわら版では、鎌倉市SDGsつながりポイントを通じて地域の人とつながりができた！という体験などをお伝えします。

岩瀬中学校では、一年生で「鎌倉探索」というプログラムを行っています。すでに神社仏閣を巡る探索は小学校で取り組んでいるので、さらに生徒たちがワクワクするような学びにならないか、またSDGs未来都市である鎌倉市でSDGsにつながるアクティビティになるように、クルッポを活用したプログラムにしたそうです。

「鎌倉探索」は岩瀬中学校一年生がこれから三年間かけて取り組むプログラム。二〇二三年度の計画では、一年



R6.5.10 地域と学校をつなげる岩瀬中学校の「鎌倉探索」

生で鎌倉の地域活性について知り、二年生で鎌倉市に住んでいる人がワクワクし、市外の人も観光にきたいとワクワクする地域活性化のプログラムを考えた、三年生で修学旅行先である高山市の事例を鎌倉に活かす方法を考える、といった内容を予定しています。

今回一年生のみなさんは、二十八のグループに分かれ、それぞれ鎌倉の地域活性についてのテーマを決めて探索ルートをつくりました。フィールドワークでは実際にクルッポを集めたり使ったりしながら、飲食店や活動団体へのインタビュー映像を作成。スライドにまとめ、発表会を開いて保護者や他のグループの前で発表し、お互いにフィードバックをしました。

プログラムではまず、校内でクルッポ体験イベントを開催し、体育館などの清掃活動や教材配付のお手伝い等、学校で身近にできる体験でクルッポのやりとりを行い、コミュニティ通貨への理解を深めたそうです。

それから鎌倉のまちを散策し、給水スポットで水を汲んでクルッポをためたり、飲食店でちよっとお得に食事をするなど、さまざまな体験をしました。探索を通して地域の方と会話をしたり、まちについて考えるきっかけにもなったようです。

特に地元の活動団体などスポットへのインタビューでは、「車より電車の方がCO2が削減できることをクルッポを通して知った」とか、「ごみを拾っただけでクルッポがもらえるので街が良くなるきっかけになると思った」というような気づきの声が聞かれました。



岩瀬中学校ではこの四月から、学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むための学校運営協議会を設置する「コミュニティ・スクール」という仕組みを導入しました。将来的に、放課後に勉強したい子のための図書室の開放や学校行事のボランティアを保護者や地域の方にお手伝いしてもらい、そのお礼としてクルッポを渡すということもできるので、といったアイデアも出ているのだとか。まずは「学校へ行こう週間(※)」で、授業参観の受付ボランティアのお礼にクルッポを渡すことにチャレンジしようとしているそうです。地域みんなで子どもたちを育て、未来をつくる。地域と学校がつながるツールとしてクルッポが活用されはじめています。

※鎌倉市教育委員会による、地域の方に学校への理解を深めてもらうために授業風景や教育施設を公開する日。